

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和2年5月19日現在

機関番号：14501
研究種目：奨励研究
研究期間：2019
課題番号：18H00132
研究課題名：幼小を貫く「話す能力・聞く能力」の評価方法の開発

研究代表者
田淵 知紗 (TABUCHI, Chisa)
神戸大学附属小学校・教諭

交付決定額（研究期間全体）（直接経費）：530000 円

研究成果の概要：平成28年度に開発し平成29年度にその効果を検証した、幼小の学びを効果的に接続する話す能力・聞く能力のカリキュラムを基に、評価指標を作成し、5歳児および6歳児の話す能力・聞く能力における個人の評価を行う方法を確立したいと考えた。平成29年度の研究において、集団としての評価を行うことでカリキュラムの効果について検証してきたが、幼小を繋いでいくためには一人ひとりの学びの軌跡を可視化していくことが必要である。そのために、本研究では、幼小に通ずる評価フォーマットおよび評価の手順を確立した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

幼児期につけたことばの力を児童期にも継続的に育てていくためには、同じ“ものさし”でことばの力を捉えていくことが必要となる。本研究においては、幼児期から児童期に一貫して育みたいことばの力を具体化し、さらに評価指標と評価フォーマットを開発することで、5歳児および6歳児の話す能力・聞く能力における個人の評価を共通の方法で行うことができるようになった。これにより、幼小の円滑な接続が一層促進することができる。

研究分野：教育学

キーワード：幼小接続 話す能力・聞く能力 評価

1. 研究の目的

平成29年度に開発したカリキュラムに基づいて、評価指標を作成し、5歳児および6歳児の話す能力・聞く能力における個人の評価を行う方法を確立する。

2. 研究成果

(1) 研究の方法

まずは平成29年度に確立したカリキュラム単元A、B（各5、6歳）の評価指標を作成した(①)。その際、各単元におけるねらいを基に、話す能力・聞く能力の評価項目を指標として設定した。その後、カリキュラム単元Aの実践を行い、抽出児童の発話記録の集積を行った(②)。さらに、単元における毎時間の児童のパフォーマンスを記録する評価フォーマットを作成し、①で作成した評価指標を基に、単元Aにおける児童のパフォーマンスを評価し、評価フォーマットに記録した(③)。そして、③を基に、カリキュラム単元Bの実践と発話記録の集積を行った。その後は単元Aの際と同様、①で作成した評価指標を基に、単元Bにおける児童のパフォーマンスを評価し、評価フォーマットに記録した。その際、③で作成した評価フォーマットの修正も行った。

(2) 単元 A・B を通して開発した評価フォーマット

単元 A、B とともに、ねらいに合わせた評価項目をすべて一覧にし、一単位時間ごとに児童のパフォーマンス評価指標に合わせて記録できるフォーマットを作成した。このフォーマットは、一単位時間につき一枚作成することで、その時間の子どものパフォーマンスを評価指標に合わせて記録することができるようになった。さらに、このフォーマットを集積することで、一単位の中で対象の児童が学んだことを総体的に捉えることもできるようになった。さらに、この

評価指標は教科の観点と異なり、ねらいに合わせた具体的な姿を評価指標に用いているため、幼児期についても用いることができるフォーマットとなった。

3. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計 0 件）

〔学会発表〕（計 1 件）

①日本国語教育学会（2019）

発表者 田淵知紗

発表表題「身近な生活から生きてはたらくことばの力を育む単元学習」

〔図書〕（計 0 件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計 0 件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年：

国内外の別：

○取得状況（計 0 件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

4. 研究組織

研究協力者

研究協力者氏名：

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。